



巡航核ミサイル

配備を阻止しよう

日刊 勤労千葉

84. 5. 29

No. 1652

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七



63 トマホーク阻止横須賀集会へ

13時 横須賀市臨海公園

新型核兵器「巡航核ミサイル」「トマホーク」の六月極東―日本配備の攻撃は、すさまじい核戦争直結の攻撃であると共に、日本の労働者・人民の反戦反核の闘いを叩きつぶすことを狙った凶暴な攻撃であり、断固として粉碎しなければなりません。「たった一発でも、人口数十万、数百万の大都市を一瞬にして壊滅」させる核弾頭をつけたトマホークのこの大量配備は、日本を完全に核攻撃基地へと一変させ、軍事的緊張のまった中にとたきこむものであり絶対に許せません。

中曽根が、この夏・秋、三里塚二期着工攻撃へとふみきり、日本の反戦反核闘争の砦「人民の抵抗の砦」三里塚をなんとしても叩きつぶそうと狙ってきていることと軌を一にした「6月トマホーク配備」の攻撃は、決して偶然ではありません。完全に一体化した「戦後政治の総決算」をかけた軍事大国化攻撃の大エスカレーションにはなりません。今秋二期着工実力阻止と固く結合して、「トマホーク」6月配備粉碎・反戦反核闘争の大爆発をちとつていこうではありませんか。

6・3関西新空港粉碎集会への結集と共に、6・3トマホーク阻止横須賀現地集会に総決起しようではありませんか。

第七艦隊（横須賀・佐世保）への「6月実戦配備」を通告

今日、中東「レバノン・ペルシャ湾で、ヨーロッパで、朝鮮半島で、中米「ニカラグア等の全世界で連日侵略戦争、挑発を行っている戦争放火者」米帝・レーガンは、「巡航核ミサイル」トマホークを米太平洋艦隊（横須賀・佐世保を母港とする第七艦隊）に、本年六月より実戦配備を開始する」と発表しました。

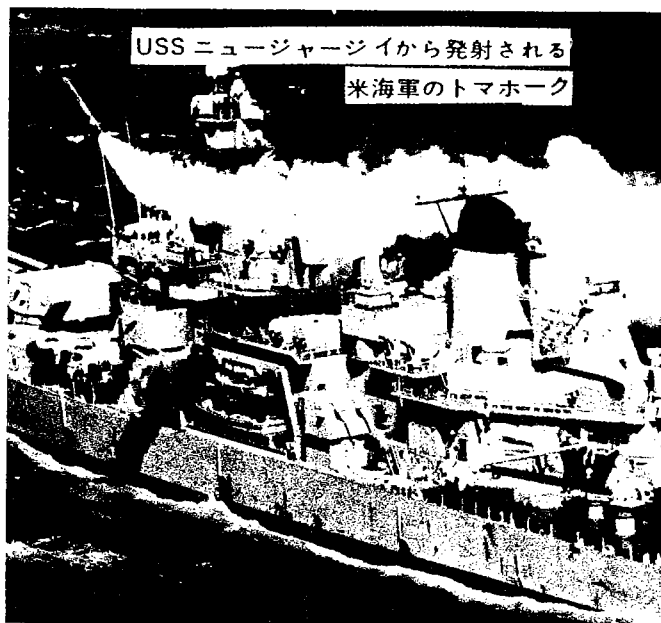
そしてすでに、トマホーク発射装置をとりつけた攻撃型原潜が横須賀や佐世保にひんばんに寄港しています。

米国防総省は、本年6月の第七艦隊への実戦配備を皮切りに、「今後十年間に米海軍の主要艦船一五四隻（攻撃型原潜七八隻、戦艦四隻、巡洋艦二六隻、駆逐艦四六隻）に発射装置を備えつけ、合計四〇〇発のトマホークを配備」して、「全世界の海上と海中に展開」すると言明しました。米海軍は大別すると太平洋艦隊と大西洋艦隊にほぼ二分された比重で展開されており、日本に寄港するトマホーク艦艇は約八〇隻にのぼるものと予想されています。

恐るべき新型核兵器「トマホーク」

―核戦争の危機を一挙に激成―

今日、最大の焦点となっている「巡航核ミサイル」



とは、いかなる核兵器なのでしょうか。

(a) 一発で「広島型の16倍」の核弾頭

トマホークは、全長6メートル・直径50センチの「大型酸素ボンベ」のような小型ミサイル。

「通常」と「核」の両方の弾頭が装着可能で、一発の核弾頭は「広島型」の16倍12〜3発で東京は壊滅という恐るべき戦略核兵器。

(b) レーダー網をかくぐって侵入し、

百発百中の命中精度

この「無人ジェット機」トマホークは、レーダーに捕捉されない超低空（50〜100m）をうよううに侵入する。内蔵コンピュータで飛行コースの地形を読みとり、あらかじめ記憶しておいた地図と照合・修正しながら目標物まで正確に飛んでいく。

（裏へつづく）

射程距離三〇〇〇キロで誤差はせいぜい25メートル。つまり、東京の国電の「二両目」を狙ってグアム島付近から発射されたトマホークが、それたとしてもせいぜい「三両目」には命中という驚くべき精度。

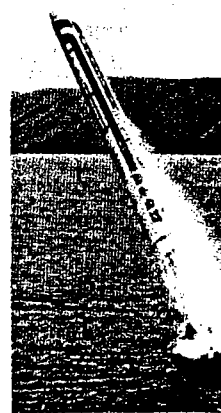
(c) 安価で、大量生産・大量配備が可能

トマホークは一基約百万ドル(二億四千万円)。ジェット戦闘機でも一機約一千万ドルかかるが、敵地攻撃にむかう空母機動部隊を編成したとすれば最低数十億ドルを要するといわれるのに比べて、トマホークなら通常艦一隻に発射台を装備すれば一日当り一八〇基のトマホークを正確に攻撃目標のうちこめるという比較にならない優位性をもつ。

(d) 驚くべき柔軟性をもつ隠密核兵器

小型で何にでもかくせること、移動・発射が簡単であることから、従来の核戦略大系を超える、「第四の核戦略の主軸」として、米帝・レーガンが最も重要視して強化を急いでいるもの。

従来の米核戦略は、①ICBM(大陸間弾道ミサイル)、②SLBM(原潜発射弾道ミサイル)、③B52などの長距離戦略核爆撃機隊、で編成されているが、この新たな「巡航ミサイル」の登場は、これを越え、地上・海上・海中・空中のどこからでも発射可能の移動展開型の第四の核攻撃大系を生み出している。



海中から発射されたトマホーク

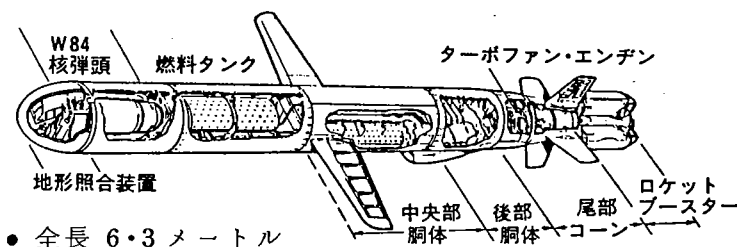
日本を核攻撃基地とさせるな！
中曽根の、「トマホーク歓迎」
Ⅱ核武装路線を粉碎しよう

このような恐るべき核兵器のもちこみに対して、日帝・中曽根が積極的にとりこみ、核武装―軍事大国化への決定的なテコにしようとしている事を弾劾し、絶対に粉碎しなければなりません。

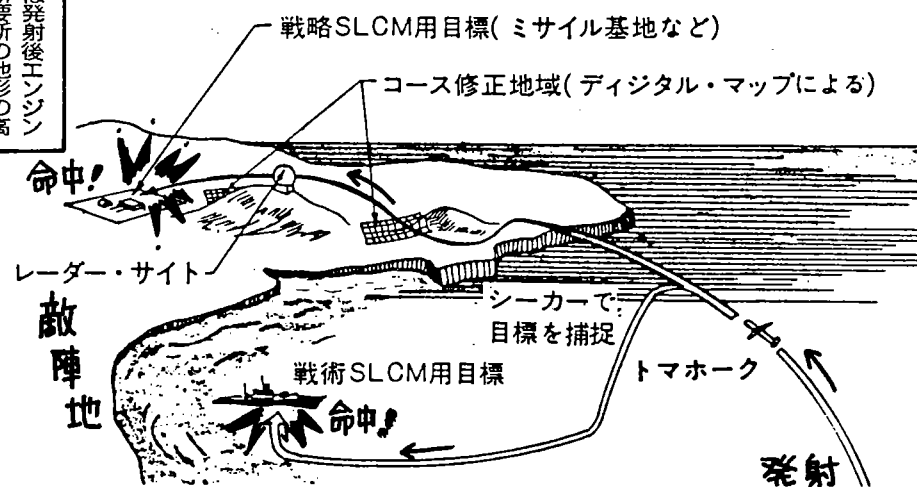
中曽根は本年二月の国会答弁で、「トマホーク配備は米国の核抑止力として歓迎すべき」「(すでにトマホークを装備している)戦艦ニュージャージー等の寄港は認める」「憲法九条では、必要最少限の自衛力として戦術核兵器は持てる」と発言しています。そして一九八二年三月十一日の桜内外相(当時)が、トマホーク配備に関連して「核持ち込みの事前協議について、米国の機密を侵すことになるならば、国民に公表しない」と言明しており、周知のように米国防総省の基本方針は「核兵器積載の有無については軍事機密であり、有るとも無いとも言わない」とされている以上、これは「自由持ち込み」の方針に他なりません。

日帝・中曽根は、トマホーク持ち込みのフリーパスをもって、明らかに日本全土を核攻撃の「不沈空母」と化す攻撃にうってでてきています。二度の世界大戦、アジア侵略、広島―長崎の歴史を絶対にくり返させないために、6月トマホーク配備阻止、反戦反核、三里塚二期阻止を實力でかちとつていこうではありませんか。

トマホーク阻止 6・3横須賀集会(護憲反安保神奈川県実行委主催)、6・9千葉県青年協議会を成功させ、三里塚二期阻止―トマホーク配備阻止―中曽根打倒 6・15東京集会(東京実行委主催)に決起しよう。



- 全長 6・3メートル
- 直径 53センチメートル



- 超低空(海上では20m、地表では50~100m)でレーダー網をかいくぐり、自らコースを読みとり・修正しながら攻撃目標にむかって飛ぶ巡航ミサイル。(発射は、海中・海上・空中・地上のいずれからでも可能)

⑤トマホークの標準タイプ。ブースターは発射後エンジンに点火すると廃棄される。所要場所の地形の高低をデジタルマップに記号化して記憶させておき、レーダー高度計で測定しながら位置を修正して飛ぶ